

平成 30 年度
学校関係者評価報告書

平成 30 年 11 月

学校法人東北文化学園大学

東北文化学園専門学校

平成 30 年度学校関係者評価について

東北文化学園専門学校は平成 25 年度に文部科学省の「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に自己評価に取り組み、以降、毎年、自己点検・自己評価を行い、企業等との連携を深め、職業教育の充実を図って参りました。平成 27 年 2 月に、1 科を除き文部科学省職業実践専門課程の認定を受け、翌 28 年には設置科全てが認定されています。

平成 29 年度の自己点検・自己評価は、「専修学校における学校評価ガイドライン」及び特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構が制定した、「専門学校等評価基準書 Ver4.0」による報告を行っています。

「平成 29 年度自己点検・自己評価」に基づき、「平成 30 年度学校関係者評価報告書」を取りまとめましたので、その結果を公表いたします。

今後も、指摘事項の改善に向けて、その進捗状況を各委員に報告するとともに、専門学校の教育・運営に活かして参ります。

1. 対象期間

平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

2. 実施方法

- (1) 学内に「自己点検および自己評価運営委員会」を設置し、当該年度の自己点検・自己評価報告書を作成しております。
- (2) 報告書を基に「学校関係者評価委員会」を開催し、意見を取りまとめています。
- (3) 各委員の意見については公開を予定しています。

3. 自己点検・自己評価の項目

平成 29 年度は以下の 10 項目について実施しています。

- 基準(1) 教育理念・目的・育成人材像
- 基準(2) 学校運営
- 基準(3) 教育活動
- 基準(4) 学修成果
- 基準(5) 学生支援
- 基準(6) 教育環境
- 基準(7) 学生の募集と受け入れ
- 基準(8) 財 務
- 基準(9) 法令等の遵守
- 基準(10) 社会貢献・地域貢献

4. 評価項目に対する評価

評価は、1～4の点数で記載しております。

4：適切　　3：やや適切　　2：やや不適切　　1：不適切

5. 学校関係者評価委員／自己点検及び自己評価運営委員

【外部委員】平成30年度

栗原 憲昭　盛総合設計　代表取締役
熊坂 雅之　仙台赤十字病院　事務部長
中里 仁　社会福祉法人東北福祉会　せんだんの杜　総合施設長
郡山 知之　(株)日本眼科医療センター　代表取締役
立石 浩一　東北文化学園専門学校同窓会　会長

【自己点検及び自己評価運営委員会】

委員長 佐藤 直由 校長
副委員長 熊谷 猛 教頭
委員 二本柳 淳子 医療技術学科長(教員)
渡辺 英隆 教務委員会主事(教員)
宇川 雅晴 学生委員会主事(教員)
増田 学身 企画広報委員会主事(教員)
津田 真彦 キャリア対策委員会主事(教員)、
松永 哲夫 事務局次長

6. 学校関係者評価委員会開催

開催日：平成30年11月21日

場 所：東北文化学園専門学校 2号館 第1会議室

平成 30 年度学校関係者評価—平成 29 年度自己点検・自己評価—

基準 1 教育理念・目的・育成人材像		
1-1	理念・目的・育成人材像	
1-1-1	理念・目的・育成人材像は、定められているか	4
1-1-2	育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	4
1-1-3	理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	4
1-1-4	社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	4

学校関係者評価

- 世の中の変化は非常に早く、学校としてかつ職員一人ひとりが時代の変化に適応していくための情報収集や企業との連携が大切だと思います。
- 昨今失業している若者が多いことを鑑み、働き続けることの大切さを具体的に教育してはいかがでしょうか。
- 各評価について担当の先生方が自ら厳しい評価をして改善しようとしていることが、昨年度に引き続き伺えました。今後に期待いたします。
- 学校の理念や目標に関して、学生や保護者に周知徹底する方針は益々重要になることと思います。今後について更に期待しております。
- 校長の交代があった際には、あらたな広報が必要と思います。理念・目標は一緒でも、アプローチの方法をどうするのか示して欲しいです。

基準 2 学校運営		
2-2	運営方針	
2-2-1	理念等に沿った運営方針を定めているか	4
2-3	事業計画	
2-3-1	理念等を達成するための事業計画を定めているか	4
2-4	運営組織	
2-4-1	設置法人は組織運営を適切に行っているか	4
2-4-2	学校運営のための組織を整備しているか	4
2-5	人事・給与制度	
2-5-1	人事・給与に関する制度を整備しているか	4
2-6	意思決定システム	
2-6-1	意思決定システムを整備しているか	4
2-7	情報システム	
2-7-1	情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか	3

学校関係者評価

- 学校外部からの意見などを取り入れており、より開かれた学校運営、情報化公開

を期待いたします。

- 全国の教育機関においては、今後益々学校経営そのものがさらに厳しい状況になってきますので、教職員の質の担保と情報の共有を進めていく必要があります。今後に期待しております。
- 大学の設置学科と専門学校との科の専門分野で重複が見られ、募集とその結果の経営で難しさがあるのではないかと思います。少子化の進む中、計画的で具体的な運営方針を提案していく必要を感じます。
- ホームページについて改善の様子が伺えますが、他校などと比較し高校生や保護者の目線によりいいものに作り上げて欲しいです。動画なども取り入れてはいかがでしょうか。
- 「季报」について、大学・専門学校全ての卒業生に郵送することも必要ではないでしょうか。

基準3 教育活動		
3-8	目標の設定	
3-8-1	理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方法を定めているか	4
3-8-2	学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	4
3-9	教育方法・評価等	
3-9-1	教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	3
3-9-2	教育課程について外部の意見を反映しているか	4
3-9-3	キャリア教育を実施しているか	4
3-9-4	授業評価を実施しているか	3
3-10	成績評価・単位認定等	
3-10-1	成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	4
3-10-2	作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	4
3-11	資格・免許の取得の指導体制	
3-11-1	目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	4
3-11-2	資格・免許取得の指導体制はあるか	4
3-12	教員・教員組織	
3-12-1	資格・要件を備えた教員を確保しているか	4
3-12-2	教員の資質向上への取り組みを行っているか	4
3-12-3	教員の組織体制を整備しているか	4

学校関係者評価

- 同一キャンパス内に大学・専門が併設されており、これを生かした教育面で何らかのコラボがなされているのでしょうか。
- 限られた時間での授業となりますが、実習などにおけるヒヤリ・ハット等諦め

る事無く指導をお願いしたいです。

- 同一敷地内に大学と専門学校が設置されておりますが、体育館や図書館の共用だけでなく教育面での融合は図られているのでしょうか。大学と専門の先生方がそれぞれに指定された授業を非常勤講師として行っても単なるコマ合わせであって、真の融合ではないと思います。
- 昨年同様、より良い人材確保の観点からも、学校、学生、企業・関連施設 3 者の更なる連携強化を期待しております。
- 姉妹大学の併設は大きな魅力ですが、同時に、競合との懸念もあります。どのように連携協力し、それをどのように見せていくか、戦略的な企画が必要になると思います。他にない新鮮かつ斬新な教育活動が展開されることを期待しています。
- 企業や施設等の実習はとても重要ですが、その企業・施設イズムで学生が評価されることも多いのではないのでしょうか。実習はその企業を知るものではなく、実習先である企業・施設を通して業界を理解することが目的です。個々の企業・施設、一担当者としての評価については、学校として学生に十分なフォローをお願いいたします。

基準 4 学修成果		
4-13	就職率	
4-13-1	就職率の向上が図られているか	4
4-14	資格・免許の取得率	
4-14-1	資格・免許取得率の向上が図られているか	3
4-15	卒業生の社会的評価	
4-15-1	卒業生の社会的評価を把握しているか	3

学校関係者評価

- 専門学校として資格や検定の取得は当然であり、それに向けて学校一丸となって取り組んでいることは大いに評価されます。しかしながら社会には一定のルールがあることも事実です。“頭でっかち”ではないバランス感覚のある人物の輩出を期待します。
- 視能訓練士においては国家試験を毎年 100%の合格を達成している報告を頂いております。先生方の努力の成果と考えております。今後の継続を期待いたします。
- 他校に比べて同窓会組織との連携が継続的にとれていると思います。今後も様々な形で協力したいと考えます。
- 難関資格合格の陰にある、先生方の生の取り組みについて、もっとアピールしても良いと思います。有益な方法は共有して、各科が切磋琢磨していけばさらに良いと思います。
- 新卒者を採用すると、自分の思っていたイメージと違うという理由で退職する人

が少なくはありません。専門学校の場合も、十分な業界研究をしないで入学する学生がいると思いますが、各科、専門分野にはほぼ 100%の就職実績があることを伺い、先生方のご努力に頭が下がります。

基準 5 学生支援		
5-16	就職等進路	
5-16-1	就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	4
5-17	中途退学への対応	
5-17-1	退学率の低減が図られているか	4
5-18	学生相談	
5-18-1	学生相談に関する体制を整備しているか	4
5-18-2	留学生に対する相談体制を整備しているか	3
5-19	学生生活	
5-19-1	学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	4
5-19-2	学生の健康管理を行う体制を整備しているか	4
5-19-3	学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	4
5-19-4	課外活動に対する支援体制を整備しているか	3
5-20	保護者との連携	
5-20-1	保護者との連携体制を構築しているか	4
5-21	卒業生・社会人	
5-21-1	卒業生への支援体制を整備しているか	3
5-21-2	産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	3
5-21-3	社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	4

学校関係者評価

- ・ 姉妹大学への編入等について、先生方の考え方が大人しく、もっと食欲でもいいのではないのでしょうか(専攻科進学についても)。
- ・ 検定や資格を取れなかった卒業生や、再就職者の情報を各科がしっかり把握していることを高く評価いたします。
- ・ 同窓会としても卒業生のキャリアアップに協力したいと考えております。今後も学校との連携を図りながら活動していく所存です。
- ・ 求人について、時に科を窓口として経験者の相談をさせていただくことがあります。既卒者の紹介を頂くなど、再就職支援を行っていることを高く評価いたします。
- ・ 上記に関連して、再就職相談センター(窓口)等の設置もご検討ください。退職の原因について精査することができ、これからの就職指導に活かせるのではないのでしょうか。⇒PRになりませんか？

- 保健室や相談室など、学生の心身のケアについて手厚くされていることを評価したいと思います。複数の教職員が連携して学生を支えて欲しいです。

基準 6 教育環境		
6-22	施設・設備等	
6-22-1	教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	3
6-23	学外実習、インターンシップ等	
6-23-1	学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	3
6-24	防災・安全管理	
6-24-1	防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	4
6-24-2	学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	3

学校関係者評価

- 医療機器の進歩は目覚ましく、メーカー等の協力を仰ぎ最新の医療機器情報の習得に取り組んでいただきたいと思います。
- 食育も重要な教育環境であると思いますので、学生食堂の環境やメニューの更なる充実も必要かと思います。
- 大学環境を専門学校生が利用できることは素晴らしいことです。更なる推進を期待しています。
- 通常の大学の授業を高校生に見学させることが日常化しているようですが、専門学校の学生も自由に大学の授業を見学できるのでしょうか。教育環境という点で検討してください。
- 姉妹大学の施設や設備、学園バスなどが使用できるのは、本校の大きな特徴であると思います。また、大学編入希望者が、大学の単位を先取りできるシステムがあることなど、もっとアピールしてはどうでしょうか？
- 建物の老朽化はある程度仕方ないと思いますが、パソコンや AV 機器などは最新のものを揃えて欲しいです。今は、小学校からそれらに触れてきているので、古い機器では、学生のモチベーションが下がるのではと危惧します。

基準 7 学生の募集と受け入れ		
7-25	学生募集活動	
7-25-1	高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	4
7-25-2	学生募集を適切、かつ、効果的に行っているか	4
7-26	入学選考	
7-26-1	入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	4
7-26-2	入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	4

7-27	学納金	
7-27-1	経費内容に対応し、学納金を算定しているか	4
7-27-2	入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取り扱いを行っているか	4

学校関係者評価

- 少子化による影響、姉妹大学との学科との競合等、学生獲得に苦慮していることが伺えます。
- 専門性の高い学科が多いようですので、体験入学をより充実させて目的意識の高い学生の入学を期待します。
- 昨年同様、高校生やその保護者への情報提供について工夫を重ねていることが感じ取れます。更なる工夫に期待しております。
- 高校教員も保護者も、卒業した先がどうなっているのかを重視していると思います。卒業生のナマの姿がもっと見えれば、それが成功例ばかりでなくても、学生募集増につながると思います。

基準 8 財務		
8-28	財務基盤	
8-28-1	学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	3
8-28-2	学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	4
8-29	予算収支計画	
8-29-1	教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	4
8-29-2	予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	3
8-30	監査	
8-30-1	私立学校法及び寄付行為に基づき、適切に監査を実施しているか	4
8-31	財務情報の公開	
8-31-1	私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	4

学校関係者評価

- 少子化の流れの中で選ばれる専門学校として、今以上に意識を持ち、絶えず戦略を打ち出していくことをお願いいたします。
- 昨年も同じ考えを示しましたが、経営幹部だけではなく、教職員全員が経営意識を持つことが、生き残りのカギではないかと痛感しておりますので、僭越ながら更なる周知徹底が必要かと考えます。
- 入学者の減少は、財務基盤に大きな影響を及ぼすことは明白ですが、少なくとも学生にマイナス面が出ないようお願いします。
- 入学金の免除や給付、奨学金制度などたくさんの金銭的な支援があることを知りましたが、報奨制度や表彰などがなく、せつかくの支援が学生募集に結びついて

いないのではと思いました。

基準 9 法令等の遵守		
9-32	関係法令、設置基準等の遵守	
9-32-1	法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	4
9-33	個人情報保護	
9-33-1	学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	4
9-34	学校評価	
9-34-1	自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	4
9-34-2	自己評価結果を公表しているか	4
9-34-3	学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	4
9-34-4	学校関係者評価を公表しているか	4
9-35	教育情報の公開	
9-35-1	教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	4

学校関係者評価

- 定期的に研修を行っていくことをお願いいたします。
- 適切に法令遵守がなされていると思います。
- 大学の入試制度改革など、専門学校にとっても大きな影響のある法律がいくつも変更の時期を迎えつつあります。時流に取り残されないよう、学校をあげて研修を行い、内部でも議論を行って頂きたいと思います。

基準 10 社会貢献・地域貢献		
10-36	社会貢献・地域貢献	
10-36-1	学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
10-36-2	国際交流に取り組んでいるか	3
10-37	ボランティア活動	
10-37-1	学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	4

学校関係者評価

- 地域と学校を繋ぐ、地域連携センター等を設置し、積極的に地域と交流を促進している学校もあり、さらなる地域貢献の成果を期待します。
- 企業目線言えば、最大の社会貢献はしっかり働いて納税することです。そうするためには専門性を高め就職することの大切さを教えることは重要になってくると思います。
- 留学生の受入れを行うのであれば、別な専門学校をつくるという考えでなければ難しいと思います。求められている教育の内容も質も違うので、まったく別のカリキュラム編成が必要になると思います。

- メディア関係への露出が低いように思えます。他校はPRを意識したメディア露出に見えますが、御校はすべてに学生を中心としたボランティア等の社会活動を行っており、その真面目さをもっと社会に対して表現できれば、学校のイメージアップにつながるのではないのでしょうか。
- 学校周辺の公園清掃を行う地域貢献は評価します。しかし、周辺地域で若い力を必要とする「何か」があるのではないのでしょうか。専門学校と大学が連携して、更に実のある地域連携を模索されてはいかがでしょうか。
- 企業連携の実習が各科で必修化されていると聞きました。実習の中にも社会貢献になることもあると思います。各科の取り組みを共有して、効果的な情報発信に結び付けて欲しいと思います。

学校関係者評価を受けて

平成 29 年度の自己点検・自己評価を基に、学校関係者評価委員各位より忌憚のないご意見を頂戴いたしました。平成 29 年度自己点検・自己評価は、昨年を準備期間として「専修学校における学校評価ガイドライン」及び特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構がガイドラインに準拠して制定した「専門学校等評価基準書 Ver4.0」による報告を行い、各委員より高い評価を頂いています。

基準の小項目中、15 項目が評定 3 であったことについて、次年度に向けて 1 項目でも評定 4 に近づけるよう改善を期待するとの付言つきながら、今年度の自己評価が「適正」であるのご判断を頂きました。中には、改善に向けて速やかに対応すべき意見もあり、教職員一丸となって取り組んでまいります。

今年度賜りましたご意見を踏まえて、関連業界との更なる連携、協力体制を深化させ、学生を主体とした、より客観的で、かつ、透明性のある学校運営を進めていく所存です。

自己点検及び自己評価運営委員会